

学習課題()

1. 私の予想

私は、新政府の旧慣温存政策は(必要あった ・ 必要なかった) と思います。なぜなら

です。

2. エキスパート活動 (私のエキスパートは A ・ B ・ C)

- (1) エキスパート資料を読んで、重要なところに線を引いたり、メモしたりしよう。
- (2) 学習課題について、班で協力し、次の活動で説明できるようエキスパート資料をまとめよう。

3. ジグソー活動

- (1) 班の友達のエキスパートのまとめを聞いて、学習課題を考える重要な点をメモしよう。

エキスパート()	エキスパート()

- (2) 学習課題について、ジグソー活動から見てきたものを個人でまとめてみよう。

4. クロストーク

「なるほど」「え!？」などと思ったところをメモしよう。

5. まとめ

私は、新政府の旧慣温存政策は、(必要あった ・ 必要なかった) と思います。なぜなら

です。

6. 振り返り及び自己評価

単元シートに今日の授業を振り返ってみよう。

琉球処分前後の新政府はどのような状態であったか？

1. 新政府の当初の財政

表1 新政府の歳入歳出の主な内訳と推移 (千円)

明治財政史編纂会 編『明治財政史 第3巻』を参考に作成

	歳入 ※ その年に国に入ってくる お金(税金など)	歳入のうち 借金等の割合 ※ 借入金・公債・紙幣発行など	歳出 ※国が1年間に使ったお金	歳出のうち借金 返済等の割合 ※ 借入金・紙幣回収など	記 入 欄
1期 1867.12~68.12	33,089	86.9%	30,505	0.9%	
2期 1869.1~69.9	34,438	72.2%	20,786	8.1%	
3期 1869.10~70.9	20,959	48.4%	20,108	13.2%	
4期 1870.10~71.9	22,145	9.7%	19,235	8.3%	
5期 1871.10~72.12	50,245	35.1%	57,730	0.0%	
6期 1873.1~73.12	85,506	12.7%	62,679	1.5%	
7期 1874.1~74.12	73,446	0.0%	82,270	1.0%	
8期 1875.1~76.6	88,321	0.0%	66,135	1.1%	
8年度 1876.7~77.6	69,483	0.0%	69,203	2.1%	
9年度 1877.7~78.6	59,461	0.0%	66,845	3.0%	
10年度 1879.7~80.6	52,338	0.0%	82,860	2.3%	

○ 表1から新政府の1期~10年度までの歳入と歳出を見て分かったことを書きましょう。

2. 明治初期の日本

(1) 表2の①~⑧の出来事を起きた時期に当てはまる表1の記入欄に入れてみよう。

(2) 表1と表2から日本の様々な出来事と当時の歳入・歳出はどのような関係がありますか

表2 明治当初のできごと

年月	できごと
1867.12	① 王政復古の大号令 明治維新
1868.1	② 戊辰戦争(~'69.6)
1871.7	③ 廃藩置県
1872.9	④ 琉球国⇒琉球藩
1873	⑤ 徴兵令(1月)・地租改正(3月)
1874	⑥ 台湾に出兵(5月~12月)
1877	⑦ 西南戦争(1月~9月)
1879	⑧ 沖縄県の設置

まとめ

沖縄の旧士族たちは、なぜ新政府の政策を受け入れなかったのか？

1. 琉球と中国・日本

(1) 表1から明時代の琉球と中国は現代と比べどのような関係だったと思いますか

表1 各国の明との朝貢回数一覧

順位	国名	回数
1	高麗(朝鮮)	95
2	琉球	70
3	暹羅(シヤム)	46
4	安南(ベトナム)	35
5	占城(チャンパ)	30
13	日本	14

「沖縄県史各論編3 古琉球」より作

表2 琉球と日本の関係

1372	察度が明と琉球の王として初めて朝貢し、王と任命される
1609	薩摩の琉球侵入
1644	明が滅亡し、清へ
1871	琉球船の台湾遭難事件
1872	日本が琉球藩設置(琉球国滅亡)
1874	日本の台湾出兵
1879	日本が沖縄県設置(琉球処分)

図1 琉球船の台湾遭難事件

1871年、宮古の船が遭難し台湾に漂着乗組員 54 人が先住民に殺害されました。

日本政府の抗議に清は「台湾は蕃地であり我々に責任はない」としたため、日本は台湾に出兵(1874)しました。

日本は「日本国属民を台湾生蕃が殺害したので、日本政府が征伐した。これは自国民を守るための正当な行動である」と主張しました。

※蛮地: 蛮人(野蛮な人が住む場所、未開の地)

朝貢とは、

周辺国が中国に貢物を献上し、王に任命してもらい、さらに膨大な返礼品ももらう関係。

(2) 表2と図1から日本の台湾出兵の目的は、清に何を認めさせようとしていますか

2. 開化党と頑固党の対応



那覇市歴史博物館 提供

頑固党

- ・親清派の上級士族、旧支配者層(役人)が中心。
- ・清との関係維持、日本への併合には反対。
- ・琉球国維持・存続(現状維持)を主張、新政府に抵抗

日本になった琉球では王国の旧支配層の人々(頑固党)を中心に新政府へ抵抗運動を起こしました。

一方、下級士族の中には琉球処分を支持し新政府に協力する者(開化党)もいました。

サンシー(賛成)事件(1879)～頑固党の抵抗～

宮古島など離島でも日本化に反対の動きが大きくなり「日本政府には絶対に従わない」という血判状(けっばんじょう)をかわし役人を中心に多くの島民が署名をしました。

そんな中、宮古島で日本警察に雇われた人物が裏切り者として島民に殺害される事件が起こりました。この事件は殺害された人物が日本に賛成したという意味でサンシー事件といえます。

その後、日本帰属反対派への警察の弾圧はさらに厳しくなり反対派の運動は衰えていきました。

「ジュニア版琉球・沖縄史」より一部要約引用

○ 上の文からなぜ、頑固党は琉球国を維持し存続させようとしたと思いますか

まとめ

琉球処分の際、沖縄の人々はどのような生活を送っていたか？

1. 琉球処分の際の沖縄の生活

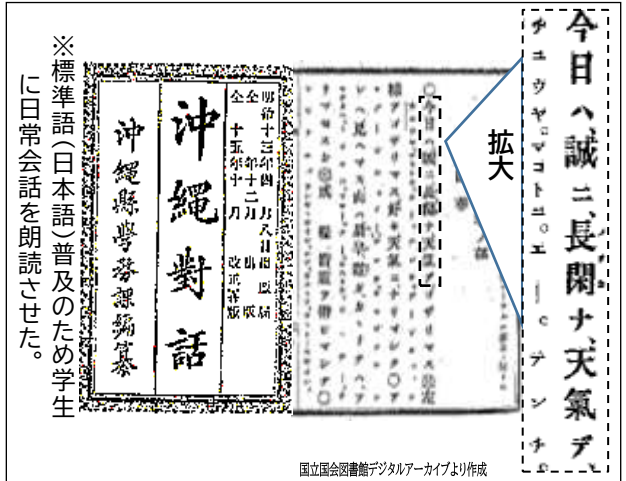
図1 琉球処分後禁止された習慣の一

- 「カタカシラ」(王国時代の男性のマゲ)
 - ・役人、教師・生徒を中心に断髪を実施
 - 士族が反発。学校を辞めさせる保護者も
- 「毛遊び(モーアシビー)」
 - ・夕刻から深夜に男女が野原や海辺で食や歌舞等で交流
 - 一部で 1960 年代まで続く
- 「針突(ハジ)」(女性の手の甲の入墨)
 - ・成人女性の証。あの世へのパスポート
 - なかなか止めず警察に検挙される人も



「ジュニア版琉球・沖縄史」より一部引用

図2 「沖縄対話」(おきなわ たいわ)



国立国会図書館デジタルアーカイブより作成

○ 図1・図2 から当時の沖縄の人々について、現在との違いで気づいたことを書きましょう。

[Blank space for writing answers to the question above.]

にんとうぜい

2. 人頭税からの解放

琉球国は15~50歳の男女に税(人頭税)を課していました。特に宮古・八重山は人頭税に加え、役人の不当な取り立が農民を苦しめており、琉球処分後も廃止されませんでした。

そんな中、1893年、宮古では新潟出身の中村十作、本島出身、城間正安の協力で農民代表の平良真牛、西里蒲らが役人の妨害を受けながら港を出発、国会で請願書を配布し現状を強く訴えました。

結果、1895年嘆願書は国会で可決しましたが、実際の廃止は1903年でした。

嘆願内容

- ・地方役人の数を減らして、島民の負担を軽減すること
- ・人頭税を廃止して地租(土地への税)とすること
- ・物品による納税をやめて現金でおさめること

政府国会への嘆願書より

サツマイモが常食で、ほとんどの農民が粟(あわ)を食べたことがない。調味料も味噌を使う者は全島民の四分の一程に過ぎず他は海水を水でうすめてサツマイモの葉を煮て食べる時の味付けとしている。醤油は味わった者さえいない。

「ジュニア版琉球・沖縄史」より一部引用

○ なぜ、新政府は人頭税を直ぐに廃止しなかったと思いますか

[Blank space for writing answers to the question above.]

まとめ

[Blank space for writing a summary.]